

## 和歌山病院での実習を終えて



太根 美聡

和歌山県立医科大学の呼吸器内科・腫瘍内科の臨床実習の一環として、7月24日、25日の二日間にわたり、和歌山病院で実習致しました。和歌山病院は呼吸器内科、循環器内科等を中心とした一般診療と共に県内最多の結核病床を有し、結核医療の中心的な役割を担っています。初めて訪れた時の第一印象は、非常に周囲が自然豊かであるということです。和歌山病院は元々結核患者の収容施設として建てられたという歴史があると聞いています。私は、昔の結核療養所というと自然豊かな土地にあるというイメージを持っていたので、初めて建物を目にしたときにそれに近いものを感じました。

実習中には結核の感染防御について教えていただき、結核病棟を案内していただきました。結核病棟というと閉鎖的な空間なのかとイメージしていましたが、実際はそのようなことはありませんでした。結核の感染防御のための工夫や、結核患者さんの入院生活の配慮について学ぶことが出来ました。副院長からかつては結核と診断されている患者さんを受け入れることに抵抗がある医療機関があったと伺いましたが、それを聞いて結核に対するネガティブなイメージが根強いものだったと感じました。さらに、医療従事者として正しい知識を身につけ、不要な抵抗感を払拭することも大切だと思いました。

また、南方院長から胸部レントゲンの読影について講義していただきました。レントゲンについてはいつもの実習で読む機会はあるもののきちんと読めている実感のないまま過ごしていました。この講義ではレントゲンはただの影絵とどこが違うのか、どこに線が描かれるのかなど根本的なことについて考えることができました。先生からの問いに対し答えに詰まるたびに、いままでいかに暗記中心の勉強をしていたかが分かりました。この講義中に考えていく中で、一つ一つの事象をただの無数の点ととらえ覚えるのではなく、考えを巡らせて一つの連続としてとらえることのほうが有意義だと学びました。先生に「錆びついた頭に油をさして」いただいたので、これからも自らの頭で考えることを忘れないよう歩んでいきたいと思えます。

この二日間は大変充実したものとなりました。貴重なお時間を割いて講義してくださった南方院長、駿田副院長、川邊先生、実習に協力してくださったスタッフの方々、入院患者の皆さまに深く御礼申し上げます。今回の経験で得たものを忘れず今後も精進してまいります。